

# 今月の星空



# 川口市立科学館

Kawaguchi Science Museum

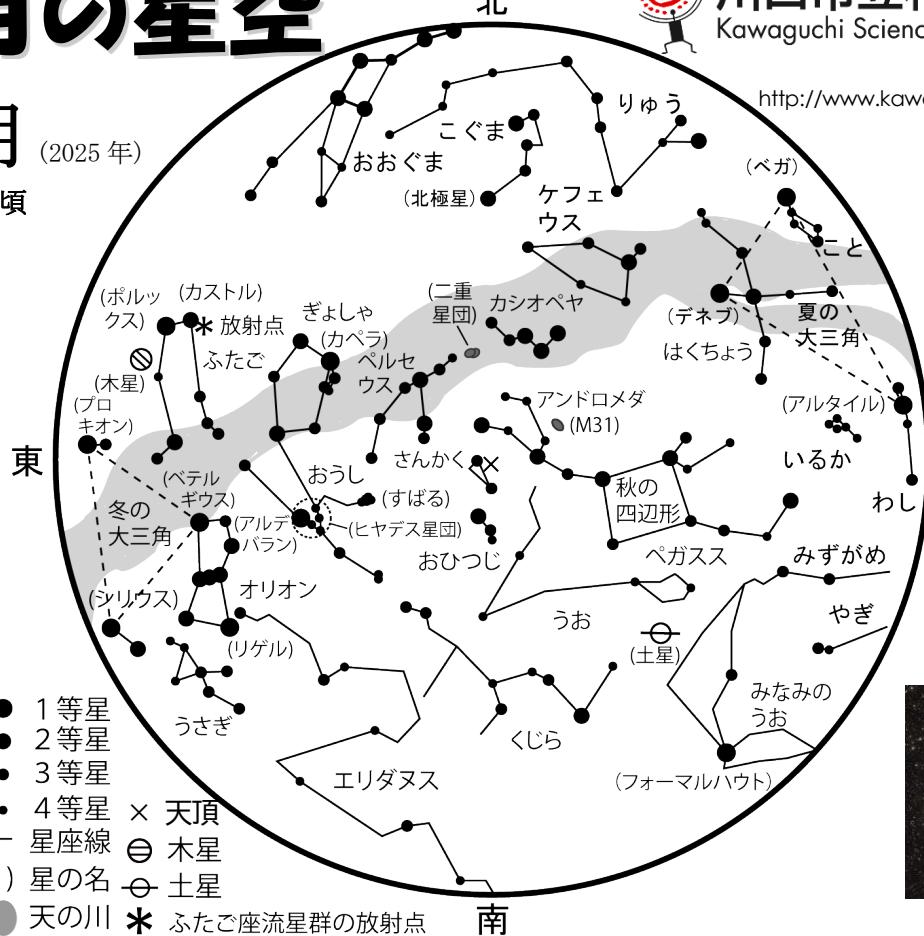


tel 048(262)8431

<http://www.kawaguchi.science.museum/>

12 月 (2025 年)

中旬 20 時頃



月 齡 ○ 滿月 5 日、● 下弦 12 日、● 新月 20 日、○ 上弦 28 日

**惑星情報** 水星 夜明け前 南東(てんびん→さそり座 0~−1等)※1日~16日頃

木星 真夜中 東→南東(ふたご座 -3等) 土星 夜のはじめ頃 南→南西(みずがめ座 1等)

☆冬の星座のさきがけ、おうし座に注目！

この時期は天頂付近から北の空にかけて、見やすい位置に、秋の星座のアンドロメダ座やペルセウス座、カシオペヤ座があり見頃です。東の空には、いよいよ冬の星座が昇ってきました。高い位置にあり目立つ星は、ぎょしゃ座のカペラとおうし座のアルデバランです。カペラは約0等で黄色に、アルデバランは約1等で、オレンジ色に輝きます。明るさや色の違いを観察してみましょう。おうし座には、「すばる」の名で知られるプレアデス星団があります。星団を構成する星としては、明るい3~4等の星がいくつかあるため、市街地でもその存在が確認できます。満月約3つ分の広がりがあるため、望遠鏡よりも視野の広い双眼鏡で見ると、星が群れる様子がわかりやすいでしょう。なお、31日23時頃には、プレアデス星団の一部が月に隠される「プレアデス星団食」が起こります。星団自体を観察する場合は、まぶしい月が近くにあると星が見づらくなるので注意が必要です。また、おうし座にある、もうひとつの星団がヒヤデス星団(星図の点線の円)です。アルデバランが目印でV字に星が並ぶため、その形から「釣鐘星」の和名があります。今年の大みそか、除夜の鐘をつく深夜は、このおうし座に注目しましょう。

☆冬の夜空の風物詩、ふたご座流星群を見よう

三大流星群の中でも毎年安定した活動を見せるふたご座流星群が 14 日 17 時頃に極大を迎えます。今年は極大時刻が夜間に近く、月明かりの影響もほとんどない好条件です。見頃は、極大時刻に近い 14 日の夜、次に極大前日の 13 日の夜です。ふたご座にある放射点※（星図参照）の位置は、夜のはじめ頃は低く、夜の遅い時間ほど天頂付近に昇り高くなります。一般に放射点が高いほど、多くの流星が見られるため、見頃は深夜帯となります。ただし、ふたご座流星群の放射点は、夜のはじめ頃でも低いながらもある程度の高さがあるため、流れ星を見るチャンスがあります。観察のポイントは、(1) ふたご座の位置を確認し（そこを中心に放射状に流れる軌跡をイメージ）、(2) 空の広い範囲を見渡し、(3) 街灯などの光を目に入れずに 15 分程度は見続けることです。街明かりのある川口の空でも見るチャンスはあります。詳しくは、国立天文台のほしぞら情報(<https://www.nao.ac.jp/astro/sky/>)もご覧ください。

※放射点とは、流星群の流星がそこから放射状に出現するように見える点のこと。